

第1回 白井市行政経営有識者会議 会議録

<p>1 開催日時</p> <p>2 開催場所</p> <p>3 出席者 (委員) (事務局)</p> <p>4 傍聴者</p> <p>5 議題</p>	<p>平成27年9月8日(火) 午後7時から午後8時30分まで</p> <p>白井市保健福祉センター 2階研修室</p> <p>伊藤会長、関谷副会長、関委員、沼尾委員、吉田委員 伊澤市長、内藤総務部長、行政経営改革課 笠井課長、高山主査、元田主査補、古川(インターン)</p> <p>2名</p> <p>①行政経営有識者会議の概要 ②白井市の現状 ③今後のスケジュール</p>
事務局	<p>本日は、お忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>それでは、ただいまから、白井市行政経営有識者会議委嘱状交付式及び第1回会議を開催いたします。</p> <p>本日進行を務めます、行政経営改革課の高山と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、本日のスケジュール等をお知らせいたします。</p> <p>本日は、このあと委嘱状の交付をさせていただきまして、市長挨拶、委員紹介として皆様からの自己紹介をしていただいた後、会長、副会長の選出を行っていただきます。</p> <p>その後、議題に入りますが、本日の議題は3つです。</p> <p>議題1といたしまして、「行政経営有識者会議の概要」を事務局から説明いたします。</p> <p>議題2といたしまして、「白井市の現状」について説明いたします。</p> <p>議題3といたしまして、「今後のスケジュール」について説明いたします。</p> <p>なお、本日の会議につきましては、審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして、公開とさせていただいております。</p> <p>会議録につきましては、委員の皆様のお名前、発言要旨がわかるように作成いたしまして、ホームページなどで公表させていただきます。</p> <p>また、会議録作成のため、会議につきましてはICレコーダーで録音させていただきますのであらかじめご了承ください。</p> <p>それでは、白井市行政経営有識者会議の委嘱状交付式を行います。</p> <p>恐れ入りますが、順番にお名前をお呼びいたしますので、自席でご起立ください。</p> <p>伊藤 伸様。</p>
伊澤市長	<p>委嘱状、伊藤 伸様、白井市行政経営有識者会議委員を委嘱します。委嘱期間、平成27年9月8日から平成30年9月7日まで。平成27年9月8日、白井市長、伊澤史夫。よろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>続きまして、関 寛之様。</p>

伊澤市長	委嘱状、関 寛之様、以下同文でございます。よろしくお願いいたします。
事務局	続きまして、関谷 昇様。
伊澤市長	委嘱状、関谷 昇様、以下同文でございます。よろしくお願いいたします。
事務局	続きまして、沼尾波子様。
伊澤市長	委嘱状、沼尾波子様、以下同文でございます。よろしくお願いいたします。
事務局	最後に、吉田 寛様。
伊澤市長	委嘱状、吉田 寛様、以下同文でございます。よろしくお願いいたします。
事務局	ありがとうございました。 それでは、開会に当たりまして、伊澤市長よりご挨拶申し上げます。
伊澤市長	改めまして、皆さんこんばんは。 本日は、大変お忙しい中、また足元が悪い中、行政経営有識者会議にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。 また、ただいま委嘱状交付させていただきました委員の皆様方には、快くこの委員を引き受けていただいたことを、重ねて御礼申し上げます。 この会議の目的は、これから事務局から説明もございしますが、この白井市、これから少子高齢化、そして人口減少が予測される中、安定した行政運営、そしてこの市を次の世代、また、その次の世代に残していくための大変大きな転機になると思っております。 その礎をこの会議でしっかりつくっていきたいと思っているところでございます。 私のほうから、少し白井市の概要について説明をさせていただきますが、この白井市は、昭和39年に町制施行をいたしまして、村から町になりました。当時の人口は約8,400人でございます。 そして、それまでの白井町は、農業のまちで主要産業は農業でした。そして、昭和42年に白井工業団地という工業団地が完成をいたします。現在は約300社余りの工場がございまして、出荷額も統計によってまちまちですけれども、約1,000億円出荷額がでございます。 農業のまちから工業を持ったまち、そして昭和54年3月、今度は千葉ニュータウンが入居を開始しました。それまで人口が約1万4,000人だったものが千葉ニュータウンの入居開始によりまして、毎年5,000人ずつ人口が増えてきました。3年で白井の人口が倍になりました。 それはどういうことかと言いますと、大きな市では毎年5,000人の人口は、例えば千葉市では、これは大きな変化はないわけでございますが、白井市の場合は、学校が、小学校2校、中学校1校だったものが、一気に1年に小学校3校、中学校2校と。あるいは、その次の年に小学校2校と、そのように一

気に公共施設が増えてきます。そして、各地域に複合センターをつくって、コミュニティの場をつくって、また文化会館、図書館、プール、総合公園等の市民の利便施設をつくってまいりました。公共施設も昭和54年から、どんどんどんどん作り始めます。

また、人口も、この白井市の千葉ニュータウンの特徴として、大変、分譲住宅の比率が多かったということで、入居以来36年目になりますけれども、多くの方はこの市で年を過ごして、30代、40代で入居された方が、現在は白井の団塊の世代は、大体65から70ということです。毎年、1,000名の方が65歳を迎えているわけでございます。今後、さらに高齢化が進んでいくことが予測されております。

また、現在人口は微増でございます。子供の数も微増しております。これは千葉ニュータウンのほかにも、新たにベリーフィールドという区画整理、計画人口が約5,700人の区画整理が始まっておりまして、入居で十数年たっております。この地域は、高齢化率が何と3%、4%。ほとんどの方が30代、子育て家庭でございます。

白井市では、既に先ほど言いました千葉ニュータウンの第1期の入居の地区では、高齢化率が40%を超えているところもございます。そのような中、現在白井市では第5次総合計画を策定中ございまして、人口推計を行ったところ、平成32年度をピークに人口減少に転じると、そういう予測も出ています。

そのような中、先ほど申し上げたように安定した市政をどう維持していくか。

今、白井市の財政状況は、国の示した財政指標、4指標、全て良好な状態にあります。しかしながら、経常収支比率は常に90%を超えております。

また税収は、大体この財政規模の約半分、50%前後で推移しております。

自主財源比率も、まだ多少余裕がある高い状況です。

しかしながら、経常収支比率が高いということは、先ほど少しふれましたように、公共施設等が整備されて、いわゆる成熟したまちになってきているのではないかと考えております。

このような中、白井市では約20年にわたり行革を実施してきましたが、この行革、役所の職員が行う行革、一般の方々の行政改革推進委員会もあるのですが、立案をする行革には、もう、ある程度限界がきているのではないかなと私は思っております。

今、この財政に多少余裕のある時期に、日銀、黒田総裁の言葉を借りれば、異次元の行革と私はいつも考えているわけですが、多少力のあるときに、この異次元の行革、いわゆる将来を見越した人口構成がかわれば、当然、行政サービスもかわってくるわけでございます。サービスの対象者もかわってくるわけでございます。この新たな誰も経験したことのないような少子化、高齢化、人口減少に向けた新たな行政というのは何だろうというのを、皆様の今までの知識、経験の中で語っていただきたいと思っているわけでございます。

そして、行革は必ずしも切るばかりではないと、私は思っております。

新たな需要に対応した、新たな事務事業、そして、今まで、もう既に十分目的を達した、あるいは、サービスの対象者がもうほとんどいなくなったというところがあると思います。スクラップ、そして、ビルド、これをうまくかみ合わせて、新しい行政の形、まちの形をつくっていきたいと思うところでございます。

	<p>そのような中、皆様にはお願いしたいことがいっぱい、期待することはいっぱいございます。私も時間が許す限り、この会議に参加をしていろいろお話をしながら、ともにこの施策、まちづくりをしていければなと思っているところでございます。</p> <p>どうか皆さん、皆さんからいただいた意見は、可能な限り、市政に反映していきたいと思っていますので、どうか忌憚のない意見をいただきたいと思えます。</p> <p>長くなりましたが、皆様方のこの活発な審議を心から期待いたしまして、私からのお礼と挨拶とさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p>
	<p>それでは、続いて委員紹介に移ります。恐縮ですが、自己紹介ということでお手元に配付してございます委員名簿の順に、伊藤委員からお願いしたいと思います。よろしくお願いします。</p> <p>伊藤委員</p> <p>こんばんは。構想日本の伊藤と申します。</p> <p>構想日本としては、白井市さんとお付き合いが深く、2年前まで、3年間続けて事業仕分けを白井市さんが取り組まれていましたので、その際、私もずっと参加をしておりました。</p> <p>また、私自身も非常に白井市さんにご縁が深く、もう9年くらい前になるかと思うのですが、職員研修、もともと事業仕分けをやる前提はない中で、職員研修があったときに、私が講師として参加をしたのですが、私が構想日本に入って2年目か3年目ぐらいで、初めて外で研修をした自治体が白井市さんだったというご縁もありまして、そういう意味では、非常に、そういった仕分けだけではなくて、おつき合いをさせていただいています。</p> <p>白井市でやった事業仕分けで、一つだけ大きな特徴がありまして、これは今でも、僕はいろいろなところで話をしているのですが、市民の皆さんの意識の高さというのが全国でトップでした。というのが、今、仕分けというのは、評価をするのが、市民の方に評価をしてもらっていて、その市民の選び方が無作為抽出、ランダムに1,000人ぐらい抽出して、その中で希望のあった方に評価をさせていただいているのですが、その応募率が常に10%を超えていたら、大体、今、100カ所ぐらいでやっている平均が5%ですので、倍ぐらいの応募率であったというのが大きな特徴です。</p> <p>参加をされたということだけではなくて、議論に、その評価をさせていただいたときのコメントであったりとか、記載内容も、非常に中身のあるご意見をいただいています。これはもう、多分この後も含めて、白井市の大きな財産ではないかというふうに思っています。そういったものも、今回の会議の中でどう生かしていけるかということも含めて、一緒に議論できればと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>事務局</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>関様、よろしくお願いします。</p>

<p>関委員</p>	<p>ちばぎん総合研究所の関と申します。</p> <p>私は、もともとは千葉銀行の営業店で、ドラマでいう半沢直樹のような銀行業務を担当してまいりました。</p> <p>現職の総合研究所に移ってからは15年になります。この間、千葉県経済の動向分析ですとか、また、自治体のまちづくりのお手伝いをさせていただいておりました。</p> <p>最近のお仕事でいいますと、千葉県経済同友会様から委託を受けまして、千葉県の30年後の将来像というテーマでレポートをまとめさせていただいて、提言を差し上げたり、また今年度は、全国的に地方創生ということで、弊社は、実は千葉県内12の自治体様から、総合戦略づくりのお手伝いをさせていただいておまして、私は、そのうち船橋市と茂原市を担当させていただいております。非常に微力ではございますが、精いっぱいお力になりたい気持ちはございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>関谷様、よろしくお願いいたします。</p>
<p>関谷委員</p>	<p>千葉大学の関谷と申します。</p> <p>私の専門は政治学というもので、特に直接の専門は、政治思想史というもののなのですけれども、特にその中でも自治とか市民参加、市民自治といったことをテーマに、歴史思想的な議論を学術的には展開をしておりますと同時に、実践面のほうにもかなり関わっているところがありまして、今のところは千葉県内を中心にですけれども、多分半数ぐらいの市町村には関わりを持って、この市民参加とか自治型のコミュニティづくりといったことで、そういった環境をつくる条例とか制度設計、あるいは具体的な事業にいろいろ関わってきたという経緯もございます。そういったことで、学術面、それから実践面、両方を柱としながら研究実践のほうは重ねておるものです。</p> <p>そういうこともあって、白井市ともいろいろな関わりがあるのですけれども、まずは、私自身がかつて白井住民であったということもあります。1981年から20年ほど、私が小学校の4年生から20年ほど白井に住んでおまして、まさに先ほど市長の話もありましたけれども、白井に千葉ニュータウンができて、発展を重ねて、ちょうど市になるところで、私は、ほかに移ってしまったのですけれども、発展の時期を私なりにいろいろ見てきたところもあって、そういう住民感覚というのが一方であります。と同時に、いろいろご縁があって、これまでも仕事としては、市民参加とか協働に関する包括的な計画を立てるということで、これは職員の皆さん、市民の皆さん一緒になって議論して、その計画をつくって、今もその動きを一つ一つ重ねているところだと思いますけれども、そういった計画づくりですとか、あと、今現在は、総合計画のほうにも少し関わりを持って、いろいろ議論のほうに関わらせていただいております。</p> <p>今回、こういった行政経営有識者会議ということで、こちらは、先ほどからお話に出ているように、本当に異次元の、抜本的にいろいろなことを考えていくという場になるというふうに事前には伺っておりますので、そういう意味では、私自身は楽しみにしているところです。</p>

	<p>今日、この委員の方々を拝見していても、いろいろな立場の方々がいらっしやあって、多分、行政経営というのをどう捉えるかというのも、実はかなり大きな問題かと思えますし、それぞれの立場、視点でどんな議論がかみ合ってくるのか、あるいは、場合によっては見解の違いが出てくるのか、それも含めて楽しみにしているところもありますし、何よりも、とにかくこの白井の今後、非常に厳しい状況の中で、本当にこう豊かなまちになっていくかどうか、その方向性、あるいは、やり方等々含めて、少しでも貢献できればというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。 沼尾様、よろしくお願いいたします。</p>
沼尾委員	<p>皆さん、こんばんは。日本大学の沼尾と申します。 私の専門は、地方財政でございます。もともとは財政学から始めまして、国と地方の財政関係の問題、例えば地方交付税、補助金制度ですとか、あるいは、財政改革などについてが、そもそもの私自身の専門でございます。 それで、今回は、たまたま、市の皆様のほうからご連絡をいただきまして、実はこれまでも、国ですとか自治体のこうした行財政制度の改革に関する審議会とか、研究会というのは、いろいろな形で参加させていただいたことはあるのですけれども、実はこれまで、千葉県内の自治体さんでというのをやったことがなくて、職員研修はやらせていただいたことはあるのですけれども、そういう意味でいうと、本当に今回お引き受けして、千葉の、まず県のことがあまりよくわかっていないので、そことの関係で、市町村がどういう状況なのかということも、本当に一から勉強させていただくようなところもあって、ちょっとまだ手探りの中で参加をさせていただいているところでございます。 ただ、いろいろな自治体とか、あるいは国などの方々と話していて感じることは、本当にどこの役所の方も、皆様、ものすごく汗をかいて頑張っておられる方が多いと思うのですけれども、なかなかそれが、国民とか住民に伝わっていないという、すごく温度差を感じるものがあって、だから、これだけ財政が厳しいのに、増税はなかなか政治的にできないという国で、でもサービスはほしいというところを、どういうふうに、その負担とサービスというところの関わりも含めて、理解し合えるような関係をつくっていければいいのかなということを、最近いろいろな場面で考えながら、職員研修などをやらせていただいています。 それが、今回のこの白井市では、すごく住民の方が意欲的だという話が、伊藤さんからあったのですけれども、職員の方も、この間初めてお二人にお会いして、ものすごくチャレンジングな役所の方たちだなと思って、とても楽しみに来たのですけれども、その白井市流の関係づくりと行財政改革というところを考えていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。 吉田様、よろしくお願いいたします。</p>

吉田委員	<p>公会計研究所の吉田 寛です。どうぞ、よろしくお願いします。</p> <p>会計というと、金勘定、それから数字合わせだというふうに思っている人が多いのですが、私の立場はさにあらず。会計というのは、会って功績を計るという意味なのです。会って功績を計るということは、その結果、何が出てくるかということ、この人に任せておいていいのかということになるのですね。</p> <p>先ほど、沼尾先生が、財政が厳しいのに増税もできないというふうにおっしゃいましたが、私の場合は、そういうときは、財政が厳しいのだったら減税したほうがいいよという立場ですね。お医者さんに任せて、やぶだったらお医者さん変えるでしょうと。任せていい人なのか、そうじゃないのかというのをちゃんと見るというのが、本当は会計の仕事だったのです。そういったあたりから、お話をさせていただければいいかなと思っております。どうぞ、よろしくお願いします。</p> <p>よく、委員にしてくださってありがとうございます。そういう立場なので、あまり好かれていないかなと思っております。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、続きまして、市職員の紹介をさせていただきます。</p> <p>総務部長の内藤でございます。</p>
内藤総務部長	<p>総務部長の内藤でございます。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>行政経営改革課長の笠井でございます。</p>
笠井課長	<p>よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>行政経営改革課の元田でございます。</p>
元田	<p>よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>現在、インターンとして明治大学から勉強にきています古川でございます。</p>
古川	<p>よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>行政経営改革課の高山と申します。この会議の担当をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、会長と副会長の選出に移りたいと思います。</p> <p>今、各自、自己紹介をいただきましたので、それを参考にしながら、会長と副会長を選出していただければと思います。お手元の資料の2、白井市行政経営有識者会議要綱がございまして、要綱の4条に会長・副会長については、委員の互選により定めると規定されておりますので、初めに、会長の選出を行いたいと思います。</p> <p>推薦等が、もしございましたら、お伺いしたいと思います。</p>
笠井課長	<p>今日一番の決め事です。1回目ですから、これから会長と副会長を座長とし</p>

	<p>まして、この会議を進めさせていただきたいと思っておりますので、是非、意欲のある方で、やってみたいという方がいらっしゃいましたら、お願いいたします。</p> <p>どうですか。なかなか皆さんお忙しいですから、いろいろとご都合あると思うのですが、いかがでしょうか。もしなければ、事務局のほうで案というか、推薦しようと思っっている方がいるのですが、いかがでしょうか。</p>
吉田委員	事務局からどうぞ。
笠井課長	<p>よろしいですか。今回、大学の先生方が3人おられますので、大学の先生方以外に、民間の方から、伊藤様と関様がおみえですので、今回、民間の方に、座長をお願いして、進行のほうを進めさせていただくことはいかがでしょうか。今回は、先ほどから考えているのは、伊藤様に、事業仕分けでもお骨折りいただき、ディレクターという役割もありますので、是非、伊藤様に会長をお願いしまして、会の進行をお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
伊藤委員	はい、わかりました。よろしく申し上げます。
笠井課長	会長の特典で、副会長は伊藤様から、もしこの方をお願いするという方がいらっしゃいましたら、ご推薦願いたいのですけれども。
伊藤委員	元白井市在住の関谷先生をお願いしたいと思います。
笠井課長	よろしいですか。
関谷委員	わかりました。よろしく申し上げます。
笠井課長	<p>ただ今、伊藤様のほうから関谷様に、副会長ということでお願いするとありました。もう一度、確認しますけれども、会長を伊藤 伸委員にお願いしまして、副会長を関谷 昇委員にお願いするというので、よろしいでしょうか。</p> <p>〔「はい」と呼ぶ者あり〕</p>
伊藤委員 関谷委員	<p>はい。申し上げます。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>それでは、伊藤委員に会長席に移動していただきまして、会長とこの後の進行について簡単な打ち合わせを持ちたいと思いますので、ここで5分間ほど休憩を取らせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p> <p>〔休憩〕</p>
事務局	それでは、諮問書をお渡しさせていただきます。申し上げます。

伊澤市長	<p>白井市行政経営有識者会議会長様、白井市長 伊澤史夫。 白井市行政経営指針及び白井市公共施設等総合管理計画の策定について諮問いたします。よろしく願いいたします。 皆さん、よろしく願いします。</p>
伊藤会長	<p>それでは、白井市附属機関条例第6条第1項の規定により、議事を進行いたします。次第にそって進めてまいります。 まずは、議題1です。行政経営有識者会議の概要について、まずは、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>お手元に配付しております、資料3をご覧ください。行政経営改革についての資料になりますが、4ページの3番、行政経営有識者会議について説明いたします。行政経営有識者会議の概要については、担任する事務が大きく三つございます。</p> <p>1番目が、行政経営に関する重要事項について調査審議すること。それから、2番目といたしまして、公共施設等総合管理計画の策定、推進等に関する事項について調査審議すること。3番目といたしまして、行政経営について市長に意見を述べること。この三つが担任する事務としてあります。</p> <p>組織といたしましては、ただいま選出いただきました会長、副会長、それから委員。委員の構成は、学識経験を有する者ということで、主には大学教授、金融関係のコンサルタント、政策シンクタンクなどから選出をさせていただいております。定数は5人以内ということで、任期は3年、報酬額は月額2万円ということになります。</p> <p>2番目の行政経営有識者会議の所掌事務について、ご説明します。</p> <p>大きく分けて、二つの策定について関わっていただきまして、一つ目が、行政経営指針の策定について、調査審議をしていただきます。</p> <p>行政経営指針には、将来を見据えた持続可能な行政運営を推進するための基本方針として、1 行政サービスのあり方。2 公共施設等のあり方。3 協働による行政運営のあり方などについて、定めていただきたいと考えております。</p> <p>行政経営指針は、平成28年度に策定をいたしまして、平成29年度から実施に移りたいと考えております。</p> <p>もう一つの策定についてですが、公共施設等総合管理計画の策定がございます。公共施設等総合管理計画とは、市が所有いたします公共施設等の全体の状況を把握し、市を取り巻く現況及び将来の見通しを分析し、これを踏まえた公共施設等の管理の基本的な方針を定めることを内容とする計画でありまして、平成28年度までに策定を終えるよう、国から要請を受けているところでございます。</p> <p>現在、8月末に公共施設等総合管理計画策定業務契約を締結しまして、これから計画策定に取り組んでいくところでございます。</p> <p>行政経営有識者会議は、この公共施設等総合管理計画の策定について、調査審議をしていただくこととなります。当該計画は、平成29年度から30年程度の長期の計画としております。</p> <p>1ページめくっていただきまして、行政経営改革のイメージ図になります。</p>

	<p>ちょうど真ん中の行政経営指針が、この会議で調査審議していただく指針になりまして、この行政経営指針を策定後に、今現在あります第4次行政改革大綱を大幅に見直しまして、行政経営改革ビジョンを平成30年度から実施する予定でございます。</p> <p>並行して、行政経営改革ビジョンを実行に移すための行政経営改革アクションプランを策定して、行政経営改革に取り組んでいく予定でございます。</p> <p>行政経営改革会議の概要については、簡単ではございますけれども、以上でございます。</p>
伊藤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ご質問やご意見はございますか。</p>
吉田委員	<p>公共施設等総合管理計画というのは、どの程度までやっていますか。</p> <p>あと一つは、公共施設がどのくらいあるかは把握していますか。いくらぐらいでつくったとか、そんな類のことはどんなふうになっていますか。</p>
事務局	<p>今回、国の要請を受けまして、公共施設等総合管理計画の策定をするのですが、それと同時に、公会計に基づく財務諸表の作成の要請もございまして、そちらの基礎資料として固定資産台帳の洗い出し業務を一括発注して、まず市が保有している資産を全て把握した上で、それをもとに公共施設等総合管理計画を策定する予定でございます。現状、全ての資産について把握しきれていない部分もございますので、その調査をまず先に進めてまいりたいと思っております。</p>
吉田委員	<p>固定資産台帳は、当然つくるべきだとは思いますが、固定資産台帳をつくるに当たって、今、市ではどのくらいが不足しているのだろうかということ。全体がわからないからわからないのだろうかけれども。例えば、こういったのは共済に入っているでしょう。火災保険とかに。その保険に入っているデータというのは、恐らく総務で持っているだろうけれども、それに多分、取得原価とか再調達価格って書いてあると思うので。</p>
事務局	<p>大まかな台帳はあるのですが、本当にそれが正確なものかを確認するため、今回、全体の調査をかける予定です。</p> <p>固定資産については現在、バラバラに持っているの、それを一度全て集約して、資産としての価値を整理するものです。</p>
伊藤会長	<p>ほかはいかがでしょう。</p>
吉田委員	<p>それから、固定資産をつくったときの目的とか、このくらい使っていればいいたろうという、達成水準みたいなのは残っていますかね。</p>
事務局	<p>台帳のですか。</p>
吉田委員	<p>いや、台帳というよりも計画自体で、例えばコミュニティセンターをつくり</p>

	<p>ます、何人ぐらいの人に使ってもらいましょうとか、どのぐらいの地域の人に使ってもらいましょうとか、想定した使い方はないのか。</p>
事務局	<p>当時つくった基本計画なり、そういうものですよ。</p>
吉田委員	<p>そうですね。</p>
事務局	<p>あるものは、あると思います。つい最近つくった建物でしたら、ありますが、昭和につくった建物が、どこまで残っているのかは、これから調べてみます。</p>
伊藤会長	<p>ありがとうございます。ほかの方がいかがでしょうか。</p>
関谷委員	<p>これをご覧いただくと、白井市第5次総合計画の一番上にあって、行政経営指針というものが下位に位置付けられていると思いますけれども、今、総合計画のほうの議論をずっとご一緒にしている中で、この行政経営指針の描き方によっては、総合計画をある程度大幅に見直す可能性も出てくるかなというふうに予想はしているのですけれども、行政経営指針と総合計画との関係について、今後どういうふうに踏まえていくのかという点を、お聞かせください。</p>
事務局	<p>総合計画は、政策を中心に展開する計画でありまして、今回考えているのは、施策というよりも財政的な面でどうやってサポートしていくかということと考えているのですけれども、先生が今、おっしゃったように、総合計画の見直しについての議論も多分出ると思います。このときにどう総合計画とすり合わせるかは、今後、検討させていただきたいと思います。あくまでも、財政的な面で、どう総合計画を進めていくかということと考えていくのですけれども、お集まりいただいたメンバーであれば、それだけで終わらない部分も出てくることは、予想はしております。</p>
関谷委員	<p>多分、財政問題について自己完結はしないでしょうから、その辺をどう考えるのかということは、今後、議論のほうで深めたいと思います。</p>
伊藤会長	<p>ほかはいかがでしょうか。 私から今のご質問に関連して二つ。 一つは、総合計画の所管課は別の課なのでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。総務部の企画政策課が所管しています。同じ部内ですけれども、課は違います。</p>
伊藤会長	<p>細かい話ですけれども、フロアは一緒ですか。</p>
事務局	<p>フロアは、急遽、うちの課をつくりましたので、空いているスペースにつくりましたから、企画政策課は3階で、行政経営改革課は4階です。ただ、企画政策課と行政経営改革課と財政課、この3課というのは、一体に連携しなければならないと考えています。</p>

伊藤会長	<p>いろいろなところでこういうのをお聞きするとき、フロアが違うという物理的な違いは、実は精神面以上に違いがあるなというところがありますが、ちょっとそこは確認いたしました。</p> <p>もう一つだけ、行政経営指針がこの行政経営有識者会議の所掌で、この後、それを踏まえて経営改革ビジョンをつくられるということですが、ここは、所掌が今の行政改革推進委員会ということになっているのですけれども、ある程度、ここで議論された経営指針の枠の中で行政経営改革ビジョンをつくっていくというようなイメージを持ってよろしいのですか。</p>
事務局	<p>はい。今、伊藤会長がおっしゃったとおり、これをどうやって具現化、実現化するかということで、サービスにも影響する部分もありますので、そこはやはりサービスを受ける市民の参加を得まして、委員会をつくって行政経営改革ビジョンをつくる予定です。</p>
伊藤会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかは質問いかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>また、先に進みながら、もし途中でお気づきのところがあれば、ご質問いただければと思います。</p> <p>まず先に、議題2にいきたいと思います。</p> <p>白井市の現状についてです。それでは、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、30分ほど時間をいただきまして、今の白井市の現状について、お話をさせていただきたいと思います。</p> <p>ほとんど、市長が概略についてお話ししましたので、私のほうからは少しデータを交えながら、白井市の現状について、説明させていただきたいと思います。</p> <p>まず、地勢でございます。千葉県北西部、東京・成田空港から30キロメートル圏内でございます。面積が35.48平方キロメートルということで、千葉県内では41位です。県内には54の市、町がありますので、41位ということは、下のほうで、非常に行政面積が狭いまちでございます。</p> <p>人口ですが、8月末現在で6万3,092人でございます。</p> <p>現状の特徴と評価について、次の説明をさせていただきます。</p> <p>今、表示しているのは、なし坊ファミリー。ゆるキャラですけれども、普通は、ゆるキャラというのは1人しかいませんけれども、うちはファミリーで、こういうようなゆるキャラをつくっております。ただ、いまひとつ人気がないのですが、ぜひ皆さんが講演とか委員会のときにでも、白井にはこういうゆるキャラがありますということで、宣伝をお願いしたいと思っております。</p> <p>それでは、白井市の特徴です。</p> <p>これは、全国住みよさランキング2015から引用したものでございます。</p> <p>毎年、東洋経済新報社が、それぞれの市町村のランク付けをしております。その中で、813の市区、全国に市と区、これは東京の区を指しているのですが、この中で人口増加率が3位でございます。13.84%なので、ここに提示してありますけれども、数年前から日本の人口は減少しています。そういう中で、白井市においては、率ですけれども、13.84%、その中で特色です</p>

が、年少人口の増減率が3位です。20.03%。ですから、若い人達もまだ白井に来ている。一方で、老年人口増減率が第1位なんです。非常におもしろい。若い人もいる、高齢者の人も増えている。そういうように二面性のある特色が人口から見えてきます。それと、場所ですが、先ほども申し上げましたけれども、東京・成田空港から30キロメートル圏内で、非常に緑豊かなまちでございます。さらに、羽田空港から、大体70分以内で来ます。国際空港の間に挟まれていて、非常にいい立地条件を有している状況でございます。

有名なものが梨でございます。県内で出荷量、栽培面積が第1位です。全国で、千葉県は第1位です。平成25年の日本の梨の出荷量が、千葉県が第1位で、全体の14%、第2位が茨城県で10%、3位が鳥取県で8%ですから、千葉県全体で梨の出荷量が非常に多いと。その中でも、白井市が一番多い。こういうことから全国有数の梨の産地というふうに言えると思います。

それと、日本で唯一の競馬学校がございます。ジョッキーの養成学校で非常に珍しい。

それと、ニュータウンエリアは地盤が非常に硬い。地震なんかでいいますと、白井市は、沼地はございませんから、非常に地盤が硬いという立地条件となっております。

それと、議会の女性議員率が非常に高いです。38.2%ということで、21人の議員がおります。そのうち、8名が女性の議員ということで、非常に女性の議員率が高い。

あと、マイナスのイメージなのですが、鉄道運賃が高いということで、これは平成26年度に住民意識調査で、市外に移住したい理由の第1位がこの問題でした。68.1%ございました。しかし、5年前の平成21年度の住民意識調査では、76.7%ですから、ポイント的には平成26年度と平成21年度と比べると8.6%低くなり、ただ、依然として、鉄道料金については、市民の関心が高いという状況です。

それと、医療施設が少ないという特色もあります。県内でみますと47位、後ろから数えたほうが早い。医療施設が、現状では少ない状況でございます。

次に、全国住みよさランキング。先ほど申し上げましたけれども、東洋経済新報社が発行しています。これで見ますと、白井は総合97位でございます。ちなみに、1位は隣の印西市です。県内では、成田市が22位、流山市が74位、白井市は97位ということで、県内では4番目、全国では97番目という位置付けでございます。その中の分類で、安心度、利便度、快適度、富裕度、住民水準充実度、その総合が97位。その中で、財政健全度が51位です。こういうランキングを見ますと、財政的にはまだ余裕があるということです。この財政健全度で全国1位が、東京の武蔵野市です。県内で1位は、浦安市が全国でも5位。印西市も全国で17位。市川市が24位ということで、それに続いて、白井市が59位となっております。

次に、現状についてでございます。町から市への発展ということで、これは冒頭で市長が話をしましたが、昭和39年に町制施行になりまして、人口が8,321人。その当時は、準農村地域といわれていました。昭和42年に工業団地の造成、昭和45年には、国道16号白井・千葉間開通。昭和50年に千葉ニュータウン入居が開始されました。これは、大山口と清水口が一番のメインになっています。この清水口と大山口については、市長の話もありましたけれ

ども、自治会においては高齢化率が50%に迫るところもあります。

大山口につきましても、30%から40%と非常に高い高齢化率で、自治会においては、高齢化というのが深刻な問題でございます。それで、昭和55年に人口2万人を突破しまして、そのときは人口伸び率全国1位といわれておりました。平成3年に北総開発鉄道が開通。平成9年に人口5万人突破。平成13年に市になりまして、平成21年には、人口が6万人を突破しております。平成23年に市政10周年を迎えまして、さらに平成26年には、ゆるキャラのなし坊があるのですが、これが20周年を迎えました。こういうふうな状況でございます。

少し、写真を見ていただくと、これが国道16号です。当時は、上の写真が、当時、工事中の昭和43年。完成後、平成13年。道路ができたおかげで大分発展をしております。

これが、西白井駅前の風景です。街開き当時の西白井駅前の北口が、現在こういうふうに変っています。

次は、公共施設の整備状況でございます。昭和56年に庁舎を整備しました。これについては、平成30年に新しい庁舎を建て替える予定でございます。

昭和57年度に西白井複合センターを開設しまして、平成26年には、大規模改修が終わっております。その後、昭和61年の駅前センター、福祉センター、富士センター、つい最近では、平成23年の白井コミュニティセンターということで、市内には、複合施設が6施設ございます。それと、運動公園、文化センター、市民プールがございまして、いずれの施設につきましても、平成6年度以前の建物が多いですから、もうそろそろ大規模改修なり、修繕を迎える時期に差しかかっております。

これが、役場の庁舎の変貌です。まず、大正13年に木造を建てまして、昭和39年に2代目の庁舎ができて、昭和47年に増築をした。非常に昔は小さなところでコンパクトに入っていた状況です。これが、現在、昭和56年3代目の庁舎、横の施設が平成13年に作りました保健福祉センター。平成30年度には減築ということで、庁舎の5階以上を壊しまして、新しく隣に建物をつくる。この庁舎については、完成図のようになっていきます。

次に、学校等の整備状況でございます。昭和44年に白井中を今の建物に改修しまして、昭和52年に白井第二小、それから平成6年度に桜台小・中ということで、今現在、小学校が9校、中学校が5校、保育園が3園あります。保育園等については、私立を入れるともっとあります。小・中学校については全て耐震改修工事が終わっております。高校が1校ございます。県立ですけれども、白井高校というのが1校ございまして、このような状況です。

これが白井小学校、当時木造、昭和55年までの風景ですね。関谷先生は、この校舎は知らないですね。

自分はこの校舎で学びました。これは白井第二小です。多分、市長はこの校舎で勉学に励んだんですね。非常に、昔はこういう木造で情緒あふれる、非常にいい校舎でした。

次は、現状についてでございます。

人口と事業について、お話をさせていただきます。

まず、人口構成ですが、冒頭の話にありまして、今現在は増えております。

ただ、この平成32年ですね、6万5,500人がピークで、その後は、平成37年には6万5,200、平成42年には6万3,900、平成47年には6万2,200で減少傾向、こういうふうに推計をしております。

当然、年少人口や生産年齢人口も減少して、高齢者人口が増加することを見込んでおります。

これが、現状の高齢化率と後期高齢者率、その全国との比較でございます。

2014年の平成26年、国においては26.1%、千葉県は25.3%、白井市は22.6%です。

この時点では、まだ白井は高齢化率は低い。75歳以上の後期高齢者の比較ですけれども、千葉県が11.2%、国が10.8%、白井市は8.5%。

まだまだ、平成26年度は国の比率よりも低い。ただ、うちの推計では、平成32年は、高齢化率が26%、平成31年、10年後ですけれども、ここは28%に迫る。

ですから、これから団塊世代の人達が一気に高齢化になってきますので、高齢化率が、恐らく国、県を上回ることを想定をしています。

次が、人口世帯と昼夜間人口比率です。広域の比較です。県内で比較してございます。

白井市の場合、この下の部分が昼夜間人口比率0.814、鎌ヶ谷市が0.761、隣の印西市が0.838、袖ヶ浦市が0.934、大網白里市が0.745、上については、市内の従業員の率でございます。市内で働く人の比率です。白井市の場合29.16、鎌ヶ谷市が26.64、印西市が高く37.59、袖ヶ浦市が44.75、大網白里市が30.79で、市内で働く人の割合は3割で、鎌ヶ谷より非常に低いという結果がデータから読みとれます。

これが、土地利用面積の推移でございます。

初めに、この緑の部分が農地ですから、農地はそれほど変わっていないのですが、山林が減ってきています。

昭和50年では38.7%、平成26年度では13.1%ですから、この間、39年間で25.6%山林が減っているという状況です。

一方で、宅地がふえています。当然、千葉ニュータウンで発展していますから、昭和50年が5.8%、現在は20.6%ですから、約39年間で14.8%増、こういうような土地利用からの見える内容でございます。

次は、土地利用の用途地域の広域比較でございます。

白井市の場合、低層住宅が35.4と中高層が24、住宅が11.2、商業系が4.6。工業系が22.8%と高いです。

鎌ヶ谷市の工業系と比べると、鎌ヶ谷市はほとんどありません。印西市は1.7、袖ヶ浦市は工業団地が結構大きいですから55.5%、大網白里市がほとんどない。そのかわり印西市は商業系の土地が非常に広いという形です。

この中で、先ほど市内の従業員比率をお話しました。

白井市の場合、工業団地があるのに29.16です。鎌ヶ谷市の場合、工業団地はなくて商業系があるのですけれども、これでも26.64、印西市の場合、工業系が1.7で商業系が25.5で、市内の従業者率が37.59、袖ヶ浦市の場合、工業系が55.5で市内の従業員数が44.75で、白井市の場合、工業系の土地が広いのに、その割には市内従業者率が低く、工業団地で市民が働いていないという状況がデータからは読みとれます。

ただ、細かい内容までは把握していませんので、こういうことが今現実的に大きな課題でもあるのではないかと捉え、市長からも、どのくらい工業団地で市内の人が働けるのか、この調査も含め、問題提起がされているところです。

次が住宅所有地の現状、広域の比較です。

白井市の持ち家が8割強。これは、印西市と大網白里市と同じくらいの比率で、白井市の特徴としましては、持ち家比率が非常に高いということです。

次が都市公園の面積広域比較でございます。

白井市の場合、1人当たり7.25平方メートル、鎌ケ谷市だけ少なくても2.27平方メートル、印西市は10.71平方メートル、袖ケ浦市が13平方メートル、大網白里市が2.18で平方メートル、7.25というのは、千葉県の1人当たりの都市公園面積というのは、平成24年のデータによりますと、大体6.6平方メートルです。

ですから、千葉県の水準よりはいいのですが、これは印西市より比べて低い、全国の1人当たりの都市公園の面積は、平均が10平方メートルです。

ですから、千葉県は全国よりも低くて、白井市は県より上回るので、全国よりも低いという状況です。

次は、下水道普及率でございます。広域との比較です。

白井市の場合につきましては、85.4%、鎌ケ谷市が57.1%、印西市が80.8%ですから、若干、公共下水道の普及率が高い。

千葉県全体の普及率は、平成26年度のデータによりますと、71.4%ですから、千葉県の平均よりは上回っているということでございます。

次が農業・商業・工業の話でございます。

これが、産業関係のデータでございます。

農業の農家数、従業者数、経営耕地面積、いずれも昭和51年から平成22年まで減少傾向にございます。

農家数で見ますと、昭和51年度では999戸、平成22年のデータは649戸ですから、300戸ぐらい減少しています。

経営耕地面積についても、1,121ヘクタールから、平成22年度では765ヘクタールですから、350ヘクタール減少しております。

商業におきましては、事業所数が、昭和51年の127事業所、少しデータが古いのですが、平成19年には220ですから、商業では、93くらい増えました。

従業者数についても、昭和51年の387人から、平成19年には2,869人ということで2,482人増えております。売り場面積も当然増えております。

工業系ですが、昭和63年は事業所数が170、平成24年度は152ですから、減少しております。

従業者数も、昭和63年が4,046人、平成24年度が4,026人ですから、若干減少しています。

ただ、平成14年、平成18年度では大分減少したのが、平成24年度では若干持ち直している状況でございます。

農業指標の広域比較でございます。

白井市の場合には1戸当たりで、117.8アールですので、鎌ケ谷市よりは

多いですが、印西市よりは小さい。

千葉県のが、少し古いデータですが、平成17年度のデータをみると、1.63ヘクタールですので、県の平均よりも低い状況です。

次が小売業の指標の比較です。

白井市の場合は、人口1人当たりの年間販売額が91万円と、印西市に次いで高い状況です。データが少し古いですが、もっと印西市のほうが高いです。

次が工業系でございます。

下のブルーが事業所数、緑が製造品の出荷額、赤が従業者数でグラフにしてあるものになります。

次に、予算です。

これが、平成26年度の一般会計当初予算でございます。ここは見ていただければ大丈夫なので説明はいたしません。

自主財源ですが、これについては104億9,000万でございます。自主財源が58.3%ということで、千葉県のが平均よりは若干高い状況でございます。

歳入の内訳の推移でございます。

市税は、平成12年度が54%、平成24年度が44.3%で、市税の割合が少しずつ減ってきています。その他の一財については、増えている状況でございます。

これが、先ほど市長が申し上げた経常収支比率の推移です。

平成12年度は、当時は町でした。町の最後の年度が、81.3%、これが平成13年度に市になりまして93.9%、それ以降、経常収支比率が90%を超えている状況です。市制施行以降、1度も80%台になっていないのが現状でございます。

つい最近のデータで見ますと、速報値ですが、平成26年度決算では、若干よくなって91.5%でございます。

これが、財政調整基金の推移です。

平成12年の町のと看には、36億5,000万円ほどございました。これが、市になって年々減ってきてまして、平成25年度では20億800万です。

地方債の残高推移でございます。

これについては、年々減ってきております。

職員数の推移です。これについても、町時代、平成の12年、432人、市になった直後は435人、一番多いときで、平成15年で439人となっており、年々減りまして、平成25年では412人、平成27年度が413人ですから、職員数については年々減少しています。人口は増えていますけれども、職員数については、減っているという状況でございます。

大きな要因というのは、指定管理者制度を平成18年度に導入したことにより、職員数は減っているという状況でございます。

次は、行革です。

これまでの取り組みとして、昭和61年度から第1次行政改革大綱をつくりまして、現在、第4次行政改革大綱で行革を進めています。

当然、職員の給与見直し、民間委託、学校給食の業務委託など徹底した行政改革に取り組み、この19年間で約35億の効果額を出してございます。

ただ、市長から話がありましたとおり、もう行革の内容だけではやりつくしている部分が非常に多いという状況でございます。

さらに、構想日本の協力を得まして、平成23年度から平成25年度の3カ年で事業仕分けを行っております。

実施計画になります233事業のうち、61事業について事業仕分けを行いました。その結果、必要性の再検討が5事業、国・県・広域が3事業、要改善が45事業、現行どおりが11事業、こういう取り組みも行ってございます。

次に、行政改革に対する市民意識ですが、これは平成26年度に住民の意識調査を行っております。18歳以上で、男女2,500人、回収率は46.5%です。この中で、健全な財政運営の推進の重要度、これについては、重要・やや重要を合計しますと、52%の人が重要と答えております。

重要でない・あまり重要でないというのが、合計しますと3.9%、わからないというのが30.3%という状況です。

次に、健全な財政運営の推進の満足度。

今の取り組みについて、満足していますかという内容では、3.3%の人しか満足、やや満足の人しかおりません。普通が30.9%、不満・やや不満が、合計しますと13.4%、わからないというのが44.9%でございます。

ですから、まだまだ行革の取り組みについて、市民は満足していないという状況でございます。

この中で、市の行政改革の取り組みで、特に力を入れてほしいものは何ですかという問いがございます。1番多かったのは、民間の経営の手法を見習って、合理的な行政経営を行うことが31.7%、次が、公費の支出を厳しく管理・報告が27.2%。逆に、1番やってほしくないとしたのは、公共施設の統廃合でございます。これが5.9%。次に少なかったのが、民間に市の業務の委託を進めることが6.2%という結果になってございます。

次が、行政改革に対する職員の意識でございます。

これは、平成27年の2月にアンケートをしまして、職員に現状とどう考えているかを聞きました。

今まで以上に、行革に力を入れるべきかという問いでは、合計しますと98.6%の人が、もっと行革を進めるべきだと答えています。

今後、職員はどのような点に重点を置いて行革に取り組むべきかについては、一番多かったのが、事務の効率化、次が職員の資質の向上・意識改革、一番少ないのが、公共施設の見直し・再編となっています。

次は、平成26の健全化判断比率でございます。

これは、国の地方公共団体財政の健全化に関する法律に基づいて算定しますと、非常に健全な状況でございます。全てクリアしております。

次が、将来の見通しでございます。

市税の見通しは、推計では、平成32年度までが87億円前後で推移していますが、その後減少していくと見込んでいます。

社会保障関連でございますけども、扶助費は子どもや高齢者などの援助のための経費で、減少していくと見込んでいます。

繰出金についても、介護保険や後期高齢者医療保険に対する負担金などで、増加していくと見込んでおります。

扶助費と繰出金の合計が50億円程度でおおむね横ばいということで、平成

28年度から平成37年度まで推移しております。

建設事業費を除いた場合の財政見通しでございます。

人口変動にも関係しますけれども、建物の事業費を除きますと、おおむね3億円から5億円のプラスに推計しています。

次が、建設事業費を含んだ場合の財政見通しです。

建設事業費を除けば3億円から5億円のプラスになるのですが、建設事業費を含みますと、平成32年度以降は、おおむね5億円以上の財源不足が生じる見込みです。

今後、約10年間で26億円の財政不足が見込まれる状況にあります。この大きな要因というのは、建設事業費と考えております。

現在、白井市として大きな課題、これからの現状、将来を見越して考えますと、六つの大きな課題があるだろうと捉えています。

一つは、急速な高齢化の進行、公共施設等の老朽化、人口減少社会の到来、財政の硬直化、財源不足、これと、やはり千葉ニュータウンで発展してきたまちですから、地域コミュニティというのが、なかなか確立されていない、これに相まって高齢化が進んでいきます。ですから、6番目の地域コミュニティの構築というのを、このまちの大きな課題であると捉えています。

それと、やはりこの白井市の特色をどうやって後世に残していくか、これもあると思います。冒頭に市長の話がありましたけれども、白井市は、立地条件が非常にいいところにあります。そういう中で、この白井市をどうやってこれから維持・発展していくのか。これが、今後大きな課題というふうにいわれております。

そういうような状況を受けまして、これからの行政計画をどうやっていくのかということで、これが骨格の部分で、平成27年度にこの行政経営改革課というのをつくりました。

この中で考えたのは、まずは情報発信をしていこう。これの一つが行政経営ニュースレターです。皆さんのお手元にあると思います。担当職員がニュースレターをつくりまして発行しています。今、何が起きているのか、これからどういうふうにしていくのか、常に情報の発信をしております。それと市民の方に、これから行政経営がどうやって進んでいくか、これについても、逐一情報を発信していきたいと思っております。

この会議についても、全て夜にやるというのは、市民の方に是非傍聴にきていただきたい、見ていただきたいというのが目的であります。

それと、改善運動ということで、白井 KAIZEN 運動を行っております。これは、職員が日常の業務の中で、少しでもコスト、業務内容を変えるような改善運動を職員一人一人にお願いをしているところです。

最後の部分ですけれども、この行政経営有識者会議でございます。

これは、もう冒頭から申し上げておりますから、これをメインにしまして、もう一度、白井の現状とこれからの白井をどのように方向付けをしていくか、これを専門家の皆さんにご意見をいただいて、これをまとめて行政経営指針をつくっていきたくて考えています。

これが、今考えている白井市が進める行政経営改革でございます。

あとは、データ集でございますので、これは後で見ただければ結構です。

今回は、少し時間がなかった関係で、大ざっぱな白井市の概要について説明

伊藤会長	<p>をさせていただきました。今後、もっと皆様の専門的な部分で、こういうデータがほしいということがあれば、当然、資料をつくりまして、それに基づいて説明なり、報告をさせていただきたいと思います。以上です。</p> <p>ありがとうございました。 かなり分量が多いですが、全体のところでご質問ご意見のある方いらっしゃいますか。</p>
関委員	<p>よろしいですか。産業振興についてお伺いしたいのですけれども、人口構成を見ますと、年少人口と老年人口が、全国レベル、トップレベルで増えていって、恐らく生産年齢人口の実数というのは、どこもそうなのですから、どんどん減っていき、今後もどんどん減っていくと。</p> <p>地域の活力を考えると、生産年齢人口が減っていくというのが、結構なポイントになってきて、そこをいかに維持していくかというのがまちづくりの課題かなというふうに認識しておりまして、そこを維持していくためにどうするかということ考えると、例えば子育て支援を一生懸命やって、ベッドタウンとして生き残っていくという道もあるのでしょうかけれども、やはり、産業振興、雇用の場、それをいかに地元につくっていくかというのも非常に重要なポイントで、そこがあるかないかで、結構ポディブローのようにきいてくるのではないかなという問題意識があります。</p> <p>ただ、先ほど市域もすごく狭いというお話がありましたので、限度もあるという中で、お伺いしたいのは、その産業振興、雇用の場の創出に関する、何か目玉みたいなものというのは何か。例えば工業団地、まだ空きがあって入れる余地があるとか、ないとは思いますが、第3の工業団地の計画だけはあるとか、もしくは、結構大きな病院できるだけでも雇用と創出の部分で、そんなものがあるかないかという、そのあたりをお聞かせください。</p>
事務局	<p>市内の従業者比率も非常に低いので、まだまだ白井市の市民の方が、工業団地に働く場というのを確保していく必要があると考えています。</p> <p>それと、条例を一つ持っています、その中で農業・商業・工業が連携をして、皆さんの雇用の確保ということはやっていきたいと。また、まち・ひと・しごとの関係ですよね。これを白井市でもつくっております。あとは広域化ですよね。印西市には、商業店舗がいっぱいできているので、雇用確保が求められると思っています。その中で、印西市だけで賄いきれない話になっていますので、広域的な連携というのも、これから行革の中には有効に生かしていく必要があります。この辺も当然、ちばぎん総研さんはいろいろ調査研究をされていますので、情報をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
関委員	<p>よくわかりました。</p> <p>実際、白井市の中だけで完結するということはありませんので、広域化というのは、多分、地方創生のポイントになってくるとは思うので。</p>
伊藤会長	<p>ほかはいかがでしょうか。</p>

吉田委員	資料の中で、昔の小学校の写真が出てきましたが、白井市で残したいものって何かあるのかな。
事務局	<p>自分が思っていることでよろしいですか。</p> <p>実は、この白井第二小学校に平塚分校という分校があります。そこはまさしく木造です。それはもう平成15年に白井第二小学校に統合になったのですが、でも、まだ平塚分校は残っています。これについては、非常に昔からの構造で、それをできれば活用することも検討したいと思っています。</p> <p>ただ、その土地ががけ地ですので、地盤が非常に弱くなっておりまして、活用するにはそういう部分も含めて、既存のものを残しながら、地盤を強化することもやっていく必要があります。白井市の中で昔から残っている木造というのは、平塚分校しかないのです。今度1度、ご案内します。</p>
吉田委員	<p>それから、財政はどんなふうにしていきたいと思っているのか。</p> <p>先ほどのやつで見ると、歳入の30%ぐらいは依存財源ですね。30ページくらいかな。</p>
事務局	これは一般的には、やはり自主財源というのはどうにかして増やしていきたいと思っていますので、これはやはり下がっている生産人口で増やして、ある程度収入というものを増やしていきたい。それは、無理でしたら、先生がおっしゃっているように、やはり身の丈にあった行政運営をやっていきたいと思えます。もう、財源を増やすことは多分難しいだろうと思っています。ですから、今ある財源でうまく市民ニーズにあった政策なり、予算配分を考えていく必要があります。
伊藤会長	いかがでしょうか。
吉田委員	交付税をもらわなくするって考えている。
事務局	恐らく交付税もなくなってくるでしょう。ですから、できればこの自主財源の中で、それにあつたサービスをどうやって選択をしてやっていくかというのは重要な課題となってくると思います。
吉田委員	先程の表から、人口の推移から言うと、平成37年ぐらいがターゲットだよな。
事務局	この会議では、とりあえず平成37年度までどうやって財政運営をしていくか、ただ、それだけでは終われませんから、その先も見据えて、いろいろなご意見いただきたいというふうに思っております。
吉田委員	42ページ、43ページ辺りなのだけれども、公共施設の統廃合を行いましようとか、民間に市の業務の委託を進めるといのは、割と人気のない政策なのだけれども、それは市に対して、結構信頼が厚いという考え方でいいのかな。

事務局	<p>民間は危ないのではないかという考え方なのか。</p> <p>先程の住民意識調査を見ていただきますと、住民意識というのは公共施設の統廃合については、一番低い6.3%です。</p> <p>ですから、やはり市民の方はわかっていながらも、身近な施設が統合されることは、非常に説明責任をしっかりとやらないと難しい問題だと思います。</p> <p>あとは、民間委託の関係ですよね。現在、19施設について指定管理者制度を導入し、民間事業者に管理していただいています。まだ、指定管理者制度を導入していないところは、大きいところでは、図書館、保育園があります。</p> <p>ですから、今後そういう施設についても、その利用者や保護者に確認しながら、どうやって指定管理を進めていくかを検討していきます。</p>
吉田委員	<p>公共施設をつくってからの耐用年数と、それから経過年数がわかるものって、今度もらってもいいですかね。</p>
事務局	<p>これから、固定資産台帳をつくるのですけれども、現在のものでよろしいですよ。</p>
吉田委員	<p>今現在でいいです。</p>
事務局	<p>それはあります。次の会議までに用意します。</p>
吉田委員	<p>それから、耐用年数というのは、いわゆる法定とか、地方財政法のものです。物をつくるときに、これは私、行政だけじゃないと思うのですけれども、物をつくるときに、耐用年数ってどこまで考えるか、どう考えるかってすごく重要なのですよ。例えば、江戸時代の商家、大きな建物をつくるでしょう、あれ耐用年数なしなのですよ。なぜかという、ずっと使うつもりだから。ずっと使えるものをつくるのだったら、それはいくらかけるかというのは、少し1割ぐらい増しになってもいいだろうけれどもというようなのは、今後、物をつくるときにはちょっと考えてみたほうがいいのかも说不定い。</p> <p>プランというのは、何年使うというのは、市役所で自主財源を増やすのと同じように、自分で決めてもいいものだろうと思います。</p>
事務局	<p>今日は1回目ですので、概略を説明させていただいて、もっと研究の中でこういうデータがほしいというのがあれば、それは次回以降で、それについて資料を提供しまして、それについて議論をしていこうと思っています。</p> <p>やはり皆さんそれぞれ専門家ですから、ちょっと見ていただいて、もう少し深掘して、議論を深めたいと思います。</p> <p>時間の制約で、まだ少し議題がありまして、もう一つ大事なもので、今後のスケジュールです。</p> <p>平成27年度は3回の会議。今日1回目が終わりました。もう1回は、12月ぐらいに、2月ぐらいにもう1回行いたいと思います。メインは平成28年度です。</p> <p>ですから、平成27年度は白井市の現状、委員さんが知りたいデータ、内容</p>

	<p>などを確認しながら、それを具体的にどう生かして、分析をして、方向を決めていくか、これを平成28年度のメインにやっていきたいと考えています。</p> <p>平成27年度には、吉田委員がおっしゃっているような、固定資産台帳、これも整理を今始めていますので、もっと詳しいデータが出るとと思いますので、これに基づいて、平成28年度で方向性を皆さんに議論していただいて、会議を進めていきたいと思います。</p> <p>今日もう一つ決めていただくのは、今後のスケジュールです。皆さん大変お忙しい方ですので、もう年間スケジュールを前もって決めておいて、それに合わせて進めていこうと思っています。</p> <p>〔委員と日程調整の過程は省略〕</p> <p>今後のスケジュールですが、2回目が12月11日の金曜日、午後7時から、3回目が2月24日の水曜日、午後7時からでお願いします。</p>
<p>事務局</p> <p>沼尾委員</p>	<p>二つだけ、今資料のお願いをしいですか。手短かに申し上げます。</p> <p>一つは、今日お話を伺って、すごく市内発展の形態が違うので、地区によって特徴があるというのはよくわかるのですが、地区別の人口構成とか産業構造みたいなものと、それぞれの地区がどういう機能を果たしているというふうに、市のほうで認識をしておられるのかということがわかるのものが一つと、あともう一つは、今回、公営企業とか国保、介護保険等の特会に関する資料がなかったのですが、そこが多分、費用負担との関係も含めて重要になってくると思うので、是非その資料を提出していただければと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>わかりました。次回の会議までに用意します。</p> <p>ほかにありますか。後ほどでも結構ですので、次回の会議に皆さんがほしいデータなり資料があればご連絡ください。データについては揃えさせていただきます。</p> <p>今日は、帰りの電車の関係がありまして、9時12分にありますので、それで乗っていただきたいと思います。ちょっと雑駁な説明をしましたが、次回以降は、腰を据えてじっくりやりますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>伊澤市長</p>	<p>遅くまで皆さん、ありがとうございました。</p> <p>私は吉田先生から、白井市で残したいものは何かと尋ねられたのですが、私は、農業を残したいと思っています。農業総生産額が約48億円あります。そのうちの半分以上、28億円が梨です。ですから、農業を残すには、やはり収入を確保しなければいけないということで、とりあえず今、私が就任してから5年目ですが、まず梨の出荷額を増やしています。タイで梨を売ったり、今年は、来週モンゴル王国へ行って、商談会をやってきます。</p> <p>別にそれは貿易で儲けるわけではなくて、話題性をとって、1個1個の単価を上げて収入を増やすという作戦なのですが、だんだんある程度、なし坊も含めて、あと、ふるさと大使ですね。物まねのホリさんで、白井の名前を</p>

売れば、白井の農産物の知名度も上がってくる。

8月から行商を始めまして、とった野菜をすぐ、昔はかごですけれども、今は車を買って、それでニュータウンを回っていく。今、ニュータウンも買い物難民の高齢者もいらっしゃいますので。

そういうことで、地産地消を地でいきたいと、だから農業を残していきたい。それは、緑の保全にも繋がるということで、最終的には、それこそ里山の保全も押さえた首都近郊の緑を残すと。農業を残していきたいので、その政策に一生懸命力を入れていきたいと思いますので、そういうアドバイスもいただきたいと思います。

それから、何よりも、平成16年にこの白井市、印西市、印旛村、本埜村2市2村の合併の話があって、協議会まで立ち上げて、白井市だけが、住民投票を行いました。

トリプルスコアで、恐らく記憶だと7,000票対2万1,000票で反対が出ました。多くの市民の方が合併をしないで単独でいきたいという10年前の意向があって、それは今でもあまり変わっていないと思います。

ですから、そのときに合併した場合、しない場合のシミュレーションを市民に示してやっております。

ただ、行政サービスは落ちます。場合によっては負担が上がりますと言ったのですけれども、そこは今まで何とか吸収をしてくれています。そのひずみが今、ここに出てきつつあります。

ですから、その行政サービスを維持しながら負担も増やさないということは、もう限界にきています。持続ある行政を推進するためには、ある程度、負担とサービスの水準を変えなければいけない。そういう状況が迫ってきております。

ということで、今、冒頭に申し上げましたように、余力のあるうちに改革をしていかないと、追い込まれてからやっていくのでは、もう切るものしかできてこないということで、プラスも見ながら、新たなサービスを見ながら財政を運営していくということで、そういうことをやっていきたいと思いますので、ぜひ、いろいろ観点から意見をいただきたいと思います。

本当に今日は、ありがとうございました。

(終了)